中国情報（INFORMATION CHINA）

2010 年 9 月号
発行所：国際ビジネス情報協同組合

９月に入りましたが、まだまだ残暑が毎日続いています。
熱中症、寝冷え風邪には気をつけましょう。

さて、日本経済は何処へ行くのやら、早くスッキリしてほしいものです。

１．首相の誰に決まるか
２．有効な景気浮揚策が打てるのか
３．円、ドル、元はどこに落ち着くのか
４．デフレ基調が打開できるのか
５．消費税はどうなるものやら
６．謝り外交は何時まで続くのか
７．地方の経済に有効な手段を打てるのか
８．中国からの観光客はどれだけ日本に益をもたらすのか
などなど、日本社会は非常に厳しいものがあります。

読者の方々はお元気なこととお察しします。
お蔭様で私たちの組合は、研修生の受け入れのお話が増えてきております。これは、日本経済が少しは良くなってきたという前兆でしょうか？それとも日本人の労働者では間に合わなくなってきているのでしょうか。日本の若者たちに、外国から来た研修生の『一生懸命な姿』を見習ってほしいと願います。

9 月の行事）

―日本―
9 月 1 日　　防災の日
9 月 20 日　　敬老の日
9 月 23 日　　秋分の日

―中国―
9 月 21 日～23 日
中秋節は『仲秋節』とも称され、旧暦の 8 月 15 日になります。
この祭日は古代中国の帝王が秋の季節にお月様を祭った礼から由来しています。中秋節には月餅を食べ、また贈り合うのが一般的な習慣となっており、月餅が中秋節に食べられるのは月と同じように丸く家族円満を願う意味で、この日は遠方からも家族が集まるそうです。

日本人と中国人）

ご存知の通り、中国人のモノ作りは極めておおらか。（平たく言えば『粗雑』です。）

日本人は一分の隙も無いほど繊細で、規格どおりでないものは不良品として扱います。中国人は、中国から日本へ輸出する農産品は、長さや大きさ、傷の無いものなど細かい点までチェックされます。このような理由から、日本よりも他の国へ輸出する方がラクだと考え、日本に輸出することを止める業者まで出てきているそうです。

日本の厳しさが信用へと変わり、日本の物が良い物だということでしょう。

しかし一方で、意味のない規格の厳しさの弊害もあることは事実です。

信用と疑い）

ある量販の電気店での中国人のお客さんと、日本人の店員の話です。

中国人：「象印の炊飯器ありますか？」
店員　：「ハイ、これがそうです」
中国人：「これは何処で製造したものですか？」
店員　：「中国です」
中国人：「日本で製造したものが、ありませんか？」
店員　：「これです、でも同じ製品ですが？」・・・同じ形の同じ製品
中国人：「日本で製造した物を買いたいです。」
店員　：「わかりました、これです。」
日本で製造したものをレジに持ってきました。
中国人：「箱を開けて中身の製品を見せてください。」
店員が封を開け、中国人に見せました。

日本製であるか、初期不良がないかなど細々確かめて買っていきました。

中国人にとっては、電化製品は特に**同メーカーの同製品でも「Made in China」でなく、「Made in Japan」**は信用があるようです。

また買った品物を店員から貰う時には、必ず箱を開け初期不良が無いか、店に置いていた品物と同じであるかを自身で確かめて買って行きます。中国人の思考は、先ず「騙されないか」を最初に考え、店員が中身の入っていない箱や不良品を騙して買わすことを恐れていることもあります。この辺は我々日本人も見習わねばなりません。中国人独特の「自己責任」が働いているのでしょう。

組合スタッフのブログ：http://ibia.blog6.fc2.com/　コツコツ更新中！

規格と弊害）

日本の厳しい規格に問題がある場合もあります。
私の話ではありますが、私の父親はみかん農家でした。
子供の頃は規格外の市場に出せない不良品を美味しく食べた記憶があります。

私と父親の話
私が皮の汚いみかんばかり食べさされるので、
私：「綺麗なみかん食べさせて欲しい」
父：「何言っているのだ」
「問屋さんが皮に付いたシミや傷があると言ってくる。お前わかってないな」
「少しのシミや傷や擦れ（枝と果実がすれる）が少々あるほうが美味いのを知らないか」
「お前、百姓の子だろう」
私：「僕が食べている方が美味しいの？」
父：「うん、綺麗に見えるのだけが美味しいのではない。中身の問題だ。町の人は見た目で判断する。
美味しいみかんは、見た目より、傷があっても張りがあることが一番なのだよ」
今、考えてみれば確かに父の話したことが正しかったと思います。
これも**規格が余りの厳しさから弊害**が出ているものもあるのですね。
ちなみに今の中国の農薬漬けの農産物も同じ傾向かもしれません。

大連観光の紹介）

９月に入り大連の気候は涼しさを増し、ゴルフや観光に良い季節です。
大連の緯度は日本の青森と仙台の間です。気温は青森と考えてほぼ間違いありません。
大連は９月、１０月が絶好の観光の季節です。

―観光地―

星海広場：遊園地、海水浴、釣り、酔族館、周りのマンション群なども。
勝利広場：大連駅前や地下街のショッピングが楽しめます。
日本人街：日本占領時代に建てられた住宅が今も残っています。
ロシア街：日本軍が占領する前からの街並みで復元された建物もあります。
大連京劇団：旧東本願寺を利用した劇場で本格的京劇を見るのも良いです。
少し足を伸ばせば旅順、２０３高地などがあります。

―ゴルフ場―

金石ゴルフ場、大連西効ゴルフ場、夏麗ゴルフ場、長興島ゴルフ場、棒槌島ゴルフ場、湾山ゴルフ場などあり、どこも楽しくプレイできます。

中国の経済事情）

刻々と変わっていく世界経済の中で現在の中国は現状と方向性を主に書いてみます。
現在までの中国について簡単に触れてみます。

技術窃盗計画）

日本をはじめ、米国や欧州などが挙って中国に輸出をしてきました。この輸出は輸出する方から見ればとんでもない中国政府の**「技術窃盗計画」**の下で行われたものであります。

わかりやすく言えば、日本の新幹線を輸出する場合、「全て技術（ノウハウ）の全てを開示しなければ、入札にすら参加できない」ということです。

これでは今までの時間や知識、費用をかけ開発してきた技術とノウハウは一瞬の内に中国側に移転されてしまいました。この事実を西側諸国も黙って見ていた訳ではありません。

日本や欧米諸国が当局に建議を提出しました。中国はＷＴＯ（世界貿易機関）に入ってから８年も経っているため、これらも改善されるだろうと期待を持っていました。しかし全く実現されるどころか、経済ナショナリズムが台頭することとなっています。

結果、ブラジルの高速鉄道で中国は「世界最先端」を標榜しています。これが日本や韓国やドイツなどからの技術移転（盗み）の結果であります。

その上、外貨準備を背景に西側諸国から批判される諸国へアプローチし、資源の権益を確保に動いています。

元の切り上げ）

元の切り上げはというとホンの少しだけで、相変わらずの調子であります。

実数で見ますと、中国人民銀行が元相場の弾力化（切り上げ）を発表してから 0.5%にも満たない僅かな切り上げです。今後、本格的に切り上げをしていくかは期待が出来ないと思われます。

これに対し強いのは米国で、輸出強化の方策を模索しています。

米国債の買い手の一番のお得意は中国であり、元の切り上げを強硬に言いたいところですが、これも言えなく、大きな切り上げが望めません。困った米国はドル安に持って行く道しか残されていません。

現在は、ドルをユーロに近づけようとしているのが米国の政策ではないでしょうか？

無策の日本政府は、残された日本円だけが円高の苦渋を味わっているのが現在の状況でしょう。

組合スタッフのブログ：http://ibia.blog6.fc2.com/　コツコツ更新中！

中国の不動産）

中国政府の発表によると、不動産価格は頭打ちの感が強まるとあります。

しかし発表によると、7 月の不動産販売面積は前年比 15.4%減であり、販売価格は海南島の海口で 47.7%、北京 12.4%、杭州 12.6%といずれも不動産価格の上昇率が鈍化しました。これは 2 軒目以降の不動産購入の融資条件を厳しくした結果でこれを続けて行くとしています。しかし、実際に多かれ少なかれ上昇は続いており、次のような事象まで発生しています。

今や日本を抜き、世界第 2 位の経済大国にのぼり詰めた中国では、不動産投機が過熱し、投機マネーが都市部から内陸部へと流入しています。その結果、無人のマンションが立ち並ぶゴーストタウンが出現し社会問題となっています。

中国・内モンゴルの都市オルドス。ＦＮＮニュースから要約
http://www.fnn-news.com/news/headlines/articles/CONN00182655.html

乾燥した大地に突如出現する建設中のビル群。

石炭やカシミヤ製造などの産業が盛んなこの町に、地元政府が日本円でおよそ 5,200 億円を投資し、開発してきたカンバス新区があります。

目抜き通りには、図書館や博物館などの斬新なデザインの建物が立ち並んでいます。街の中心にある広場は、正午を少し回った時間にもかかわらず、人通りはほとんどなく閑散としています。

人口 100 万人の居住地として設計されたこの町ですが、入居者がわずか 3%にも満たずゴーストタウンのような異様な光景が広がっています。

あるヨーロッパ風の高級マンションは 370 平方メートル、およそ 7,500 万円の物件だがすでに完売しています。

これが中国不動産バブルの象徴であるのかどうかは時間が経てばわかることでありますが、いずれにせよ、現在のところ不動産は中国当局の規制に係らず値上がりしていることは間違いありません。

中国国内経済の生産拠点）

中国では、上海、広州など沿岸部と内陸部では著しい格差（我々日本人が想像できい）があり、これを是正すべく「西部大開発」2000 年から計画実施されています。

西部とは、重慶を中心とした武漢、成都であります。

企業は広東省の半分以下の賃金で雇いいれが出来るため、また外資系の優遇策もあり内陸部へ生産拠点を移しています。

組合スタッフのブログ：http://ibia.blog6.fc2.com/　コツコツ更新中！

米国債）

中国は米国の国債を世界一持っており、ドルが有り余るほどあります。

また日本は、米国の言うことなら何でも聞く国です。

一方、西欧世界は旧来の植民地を支配してきました。支配（搾取）するだけで育てることは殆どしませんでした。

西欧の世界に満足できない国が、低開発国には、独裁軍事政権である国がたくさんあります。これらの国は資源を持っているにも係らず、世界通貨であるドルがありません。

低開発国には、これらの条件があり、中華思想が奥底にあるとすると中国は如何にするでしょうか？（中華思想とは、わかりやすく言うと、中国は経済や文化世界の中心であり、他の国はこれに従わなければならないという思想です。）

有り余ったドルで、民主政権であろうが無かろうが関係なく、資源を買い取っているのが今の中国です。

また、中国の自国の希少金属などは売らないか、或いは値を吊り上げて売るでしょう。

米国は中国から借金しているからものが言えない。米国の植民地同然である日本は相変わらず誤り外交です。

ヨーロッパは、ユーロの問題で口出しどころの騒ぎでない。唯一フランスのサクコジ大統領が中国に苦言を述べている位です。

中国の向うところは元通貨圏であり、世界制覇を目指しているのではないでしょうか？

どのように見ても、今は、中国の一人勝ちのようであります。

国内の政治）

一体日本の政治の方向は何処へ行くのでしょう。

日本は永い間米国に植民地化され、アジアでは謝り外交を続けています。

国内では円高になっても何の手も打たなかったり、消費税を上げると言ってみたり、最低賃金を上げる等々、経済活性化のための有効な施策打ち出せなく、反対の施策を打ち出しています。

この先どうなって行くのでしょうか？

韓国に対し大東亜戦争に関する日韓の問題について、昭和 40 年（1965 年）日韓基本条約と関連協定で全てが既に解決済みであります。日本は解決済みの上に立ち、日韓が発展させていかねばならないというのが日本政府に課せられた課題であります。

これとは全く反対に過去にさかのぼり、問題を惹起させるのが双方に取り真に利益のあることでしょうか？

民主党の歴史観は、「自虐史」「贖罪意識」であるのか、何時まで経っても「謝り」であります。

これによって、韓国は一気に「竹島問題」「慰安婦問題」「教科書問題」などなど多くの問題を惹起しています。また、日韓だけでなく東南アジアの諸国から新たな問題が突きつけられる恐れを起こってくることが予想されます。

組合スタッフのブログ：http://ibia.blog6.fc2.com/　コツコツ更新中！

打つ手はないか円高）

円が各通貨に対し独歩高です。

8 月は米国債の償還月、決済用に手元資金を円に変えるなどの理由があるにせよ、15 年ぶりに 84 円台に乗せるとは普通でありません。

円相場が 95 円と言われていますが官邸からは何も発表がなく、また日銀は、金融緩和策を発表しましたが、遅きに失した感があります。これでは、大企業は国に頼らない生産設備の海外シフトを加速させ、益々日本の空洞化を図っているようなものです。

ちょっといい話）　※「香港に住む大富豪４１の教え」からの要約

これからの世界はどう変わるのかについて、

１．グローバル化による人の大移動

２．高齢化による人間の価値観の変化

３．欧米からアジア地域へのパワーバランスシフト

冷戦が終わり、米国が一人勝ちを謳歌してきました。日本は 1997 年にバブル崩壊が始まり、アメリカが 1990 年にグローバル化を推し進めてきました。アメリカンスタンダードを世界に押し付けるためです。これは世界の不均衡を無くすのでなくアメリカに有利になるルールを作ることでした。

アメリカは、豊富な労力、低賃金のコスト、これを確保するにはどうしてもアメリカンスタンダードが必要であった。

中国の政策とアメリカの政策が一致し、インターネットによって情報通信のコストが下がり、生産拠点もアジアに移りました。

そうして猛スピードで中国は発展してきました。しかしアメリカの思惑違いがそこにはありました。アメリカは眠っている龍を叩き起こしたのです。龍は言うことを聞かないのです。

このグランドデザインを考えたのが鄧小平であり、彼の考え方に次通りであります。

「白猫であれ黒猫であれ、鼠を捕るのがいい猫である。」このことを実証したのが現在の中国です。

【投稿募集します！】

中国に関する情報、ご意見、相談、自慢話等々、どんな内容でも結構です。

貴方からのご投稿お待ちしております。匿名やペンネームでも OK です。

投稿先：info@ibia.or.jp　（国際ビジネス情報協同組合）